



「あくび」は、なぜうつるの

「あくび」は本当ほんとうにうつる？

おなへやなんにんひと 同じ部屋に何人かの人^{ひと}がいたり、ラッシュの電車^{でんしゃ}の中や映画館^{えいがかん}のような人ごみ^{ひと}の中で、だれか一人^{ひとり}が大あくび^{おお}をすると、つられたように、あちこちで、あくび^{ひと}をする人^{ひと}が出るため、よく、「あくび^{でんせん}は伝染^{でんせん}する」といわれますが、あくび^{でんせん}に伝染^{せいしつ}する性質^{せいしつ}はありません。

「あくび」がで出るのは

「あくび」は、つかれたとき、ねむけをもよおしたとき、たいくつしたときなどにで出るので、めが覚^さめているときしか出^でません。

つかれたり、たいくつしたりすると、脳^{のう}のはたらきがにぶくなり、脳^{のう}に酸素^{さんそ}がたりなくな^そって、ねむたくなったりします。それで、大きく息^{いき}を吸^すいこみ、脳^{のう}に酸素^{さんそ}を送^{おく}ってやるために、あくび^でが出てくるのです。

「あくび」が伝染^{でんせん}するみように見えるのは

おもしろくない話^{はなし}を聞^きいて、たいくつにな^{ひと}ったころには、ほかの人^{ひと}もみなたいくつして^{ひと}いるし、ラッシュの電車^{でんしゃ}の中^{なか}では、だれもがつかれていて、あまりきれいでない空気^{くうき}を吸^すっているため、だれもがあくび^みをしたくなっているのです。

そのため、それまで人前^{ひとまえ}だからと、あくび^みをこらえていた人も、だれかがあくび^みをす^{おも}ると、思^{おも}わず気がゆるんで、つられたようにあくび^きをす^きるのです。（監修・保志 宏）

